

# 聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

## 巻頭言

### 「福音派」と「福音主義」

(聖書神学舎教師、聖書宣教会図書館長) 津村 俊夫

昨年11月に、奈良で開催された、日本福音主義神学会・全国研究会議のために主題講演を依頼されて、30年ぶりに参加しました。そして、この30年間の学問上の変化を振り返るよい機会が与えられました。

一般の人文科学が、構造主義から、ポスト構造主義、そしてポストモダンの思想状況に移行して行く中で、「聖書学」も、少し遅れて、同じような進展を経てきました。嘗ては、それでなければ学問ではないと言われ、200年間続いて来た「文書資料説」が、今や、過ぎ去った時代の「一つの仮説」となっていること、そして、今や、どれか一つの方法論が絶対的であると言えなくなって来て、第一次大戦後のバルカン半島の小国分裂状態のような様相を呈していると言われていることなどを確認しました。福音派の学問的状況も、相対主義の嵐の中で、中心を見失っているような感じがします。言い換えれば、福音派が「福音主義」でなくなっているのではないか、という印象です。

このような中で、もう一度、「福音主義」の原点である「聖書信仰」の中味を再確認する必要があります。「みんな仲良く」するために、聖書信仰が骨抜きにされてはならないのではないかと思います。「福音主義」が、「聖書信仰」という本来の主張を放棄してしまうなら、自滅の道を辿る他なく、「福音派」としてグループを形成している意味がなくなってしまうように思います。

「聖書信仰」が単なるお題目に終わることがないように、聖書そのものを「読む力」を養う必要があるでしょう。「聖書の究極の著者である神が、人間の著者を通して伝えようと意図された意味を理解するために、忍耐強く聖書テキストに聞き続けること」が必要です。しかし、聖書テキストに「聞き続ける」ためには、聖書そのものへの信頼と、そこから神の御心を知る熱心と、神が何をお語りになろうとしているのかを知ることへの期待がなくてはなりません。みことばとその真の著者である神への「恐れ」をもって、みことばに「聞き続ける」ことが必要です。

ポスト・モダンの、「ことば中心主義に対

する反動」がある中で、聖書テキストそのものから離れないで、そこに留まり、どこまでも忍耐強く「聞き続ける」ことが大切なのです。では、何によってそれが可能でしょうか。みことばの主に対する「恐れ」、すなわち「敬虔」(=神を恐れること)こそが、聖書そのものから私たちを離れさせなくする要因である、と私は思います。

今、ここで、宗教改革以後の「神学的教条主義」の行き過ぎに対する反省として、ドイツで始まった「敬虔主義」が主張したように、「聖書は真の靈性を与えるための、神の御手にある道具である」(シュペーナー)ことを、再確認する必要があるのではないのでしょうか。

我が国では、明治以来の日本学以外の学問が、輸入学問であったことの影響が今も続いていて、「西洋のもの」とされる聖書学は未だそれから脱却できていません。「福音主義神学」の場合も、欧米の、とくにアメリカの福音派の議論の後追いではない「ような」状況が、今回の研究会議に於いても、顕著であったのではないかと思います。このような状況の中で、一次資料である「聖書」そのものを読む力を養い続けることが、日本の教会に必須であると確信させられました。「聖書学」学ではなく、真の「聖書学」を根付かせていくことが、今なお、日本の教会にとって重要な課題であるように思われるのです。

「釈義、釈義」と言っているだけで、「読む力」がなければ何にもならないのです。閉塞状態にあると言われる今日のキリスト教会に必要なことは、正に「みことばへの確信」と「聖書を読む力」を取り戻すことではないかと思います。そして、教会が聖書を産み出したのではなく、聖書が教会を産み出したことを忘れないようにしたいと思います。聖書こそ、教会がよって立つ土台であるのですから。



学舎における主のみわがが、大勢の皆さまの祈りと献げ物に支えられて、豊かに営まれていることを感謝して、御名をほめたえします。

### ●卒業の季節に想う

早いもので、今年も卒業の季節を迎えています。卒業予定者にとっては、忙しくも充実したときです。卒論、卒研やチャペルでの説教を通して、一人一人が主へのおそれをもって、みことばそのものと向き合う姿は嬉しく、頼もしくも思えるものです。他の権威に拠ろうとせず、学舎での学びと訓練で得たものを総動員してみことばと格闘し、祈って主に聴く姿勢です。伝道者生涯を通してこれを大切にしたいと祈られます。

折々に、卒業生からの連絡や相談、祈りの要請を受けます。みことばに向かい続けること、聖書の原理に忠実に、堅く立つことが、自然にできることではなくて、たたかひの中で勝ち取り続ける態度であることを痛感します。「愛し抜くことへの挑戦」としての牧会の奉仕ともども、主の助けを仰ぎ求めつつの取り組みです。

この、生涯にわたる幸いな闘いに、6名が加えられようとしています。3月16日の卒業式を覚えてどうぞお祈りください。

教師・講師のためにもお祈りください。特に、厳しい闘病の中にある先生方のために。詳細は別なチャンネルに委ねるよりほかありませんが、祈っている一同も、各々死すべき者であることを憶えつつ祈る日々です。

### ●新年度に向けて

入会試験の結果、2015年度には7名の新入会生を迎えることになりました。22歳から49歳までの、本科生、そして男性です。仲間に加えられることを祈っていた女子寮生には、喜びの中に少しの失意があるかも知れません。

ともあれ、聖書科には新年度は在籍者がいなくなります。聖書専攻、教会音楽専攻ともに多様な教会の働きに備えることのできる課程としてさらに用いられることを

祈っています。この度、教会音楽専攻委員会から「教会音楽ニューズレター」が発行されました。諸教会の礼拝と賛美の充実に何かのお役に立てば幸いです。

入会式は4月7日です。夏までの間に、祈りの日、特別講義、教会音楽のひとつなど、大切な行事が続きます。

夏のキャラバン伝道準備は、昨年とは異なる様相で進んでいます。12教会から派遣要請を頂戴して、感謝し、嬉しい悲鳴を上げています。委員会が祈り深く派遣先を決定しますが、要請にお応えできず、チームを派遣できない教会のためにも、例年通り、その各地にある主の働きのために続けてお祈りします。

### ●主のみわが

経済的な必要においても、いつも主の豊かな供給に感謝しています。教師会への昨秋の会計報告は例年になく大きな赤字で、研修生ともどもに大いに祈りました。主の摂理にいつも驚かされ、感謝するのですが、状況を知る由もない方々を含め、不思議なようにちょうど必要を満たす大きな献げ物が次々に寄せられるのです。主に仕える幸いに心が踊ります。

主が、献身者を起こされることにおいても、みわがを大胆になさってくださることを祈ります。各地の神学校があふれるほどに。日本で、世界で、収穫のための働き手の必要はますます大きいのですから。

ちょうどこの通信が発送される週は、学生伝道団体の集会に、神学舎もブースを出しています。神学校について見聞きする接点も、キリスト者の学生たちが主の御声を聞く契機として用いられるように祈ります。

教会、教団のキャンプや修養会などで、神学校についてお知らせする機会がありましたら、どうぞお呼びください。専任教師の教会訪問の費用は当方で用意しています。

この渾沌とした時代に、祈りと信頼を新たにして主に聴き従う諸教会の皆さまの上に、助けと祝福が豊かにありますようにお祈りして。

## 主のあかし、歌のことば

ちがこ  
(聖書神学舎教師) 飯島 干雍子

「今、次の歌を書きしるし、それをイスラエル人に教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエル人に対するわたしのあかしとするためである。」(申命記 31 章 19 節)

主の計り知れない恵みとあわれみを心から感謝し、御名をほめたたえます。

私は大学浪人中の秋、イエス・キリストを信じる決心をし信仰告白をしました。私にご自身を示し、罪を教え、御子、主イエス・キリストの十字架による赦しを与えてくださった神は、今日まで変わらず忍耐をもって導いてくださいました。

大学 4 年になる春休みだったと思います。特別集会で賛美の奉仕をさせていただいたとき、心の内に迫られて、賛美を通して主に仕えたいと献身しました。その願いをどう実現できるか、賛美の学びをしたいけれど何処で学ばばいいのか悩みましたが、大学院での学びの道が開かれ、暫くして岳藤豪希先生にお会いしました。エヴァンゲリウムカントライの創設、聖書神学舎教会音楽奉仕者養成講座の開講によって、賛美の実践と学びが始まりました。その後、聖書神学舎に教会音楽科が開設され、今日まで約 60 人ほどの兄弟が献身され学びと訓練を受け各地に遣わされています。

昨年、在職 40 年で勤務していたキリスト教主義の大学を定年退職しました。その職に就くときも岳藤先生に相談しました。先生の勧めで留学を大学に申請、許されドイツで学ぶ機会が与えられました。振り返ると、主がすべての行程を導いてくださったことを知らされます。

昨夏、ヘルムート・リリングのもと、ワイマール・バッハカンタータ・アカデミーが開講され、年齢制限もあり歌っての参加は出来ませんでした。聴講生として 10 日間、共に学ぶ機会が与えられました。J.S. バッハがワイマール時代に作曲したカンタータから 7 曲を、毎日 7 時間、教会音楽家リリ

ングが若い合唱団・オーケストラ 66 人と学ぶアカデミーでした。

若い音楽家たちは見事に歌い始めました。音楽的に準備の良くてきた、才能に恵まれた気持ちのいい合唱団とオーケストラ。その人たちが 10 日間の学びを通して変化していく姿を見ました。リリングは一つ一つの曲を丁寧に説明し指導します。作曲の意図、聖書のことばの意味、ことばが音楽でどう表現されているか、穏やかに、的確に、厳しく。殆どの人たちが欧米出身でキリスト教についての関心や知識があると思いましたが、必ずしもそうではなかったようです。毎日、少しずつ変化していきます。上手くなるというわけではありません。何か、歌のことばが聞こえてくるようになったのです。賛美の歌詞とその音楽が演奏する人の中で動き働いているのか、日々に合唱が変化していきます。聖書のことば、神のことばを語り始めたのです。バッハが福音伝道者：エヴァンゲリストであることを改めて知りました。申命記のことばを思いました。神のあかしとしての歌のことばを。

人が歌うことばは、その人自身に先ず語られます。神のことばがその人に語りかけ、その人が変わるのだと思います。合唱団は聖歌隊になり、遂には福音聖歌隊：エヴァンゲリウムカントライに変わりました。

この 10 日間の学びの経験を通して、改めて、主の前に賛美のうたを歌う意味を確信しました。あなたは主の前に何を持って出ていくのか、あなたは何処にいるのかと問われて、岳藤先生が労苦していらしたことを少しだけわかったような気がしています。

今の時代にも、今だからこそ、教会音楽・賛美のうたのことばを委ねられた方々を主が起こしてくださいと信じます。そのような方が起こされるよう、また、聖書科・教会音楽専攻が学びと訓練の場として、これからも、主に忠実にお仕えしていくことができますよう続けてお祈りください。

# 2015年度 聖書宣教会講座案内

2015年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。聖書講座、教会合唱講座はどなたでも参加できます。お待ちしております。

## 聖書講座（金曜日 10:30～12:10）

前期：「賛美歌学」（飯島 千雅子）  
4月10日～10月9日（15回）  
於 ぶどうの樹キリスト教会（四ッ谷）  
後期：「使徒の働き」（神田 唯志）  
10月～3月（15回）

## 教会合唱講座（火曜日 18:30～20:30）

前期：「賛美：会衆賛美、奏楽、聖歌隊-8 モテットと会衆賛美歌」（飯島 千雅子）  
4月21日～10月6日（9回）  
於 浜田山キリスト教会  
後期：10月～3月（9回）

## 第40回 夏期研修講座

期間：7月7日（火）～9日（木）  
会場：奥多摩福音の家  
対象：牧会者とその配偶者  
テーマ：「聖書言語の役割 ～LXXギリシャ語聖書と聖書釈義～」  
講師：村岡 崇光 師（ライデン大学名誉教授）  
毎年、夏期研修講座を積み重ねてきて、今年はずいに40回を数えることになりました。そこで、40回を記念して今年には村岡崇光先生をお迎えして、夏期研修を開催することになりました。村岡先生は、現在オランダに在住で、ヘブル大学で博士号を取得後、各地で教え、1991年から2003年まではオランダのライデン大学で教鞭を執られました。ギリシャ語やセム語に造詣の深い先生から、今回は聖書をギリシャ語やヘブル語で学ぶことに関して広く講義していただくことになっています。是非お集まりください。  
詳細：別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

## 第31回 教会音楽夏期講習会

期間：7月22日（水）～24日（金）  
会場：聖書宣教会（宿泊は近隣の「玉川苑」）  
対象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方  
「みことばと音楽」-礼拝と賛美（4）-  
今夏も教会音楽夏期講習を開催いたします。テーマは昨年に引き続き「みことばと音楽」です。様々な「賛美」が諸教会を覆う中で、礼拝での賛美のあり方をご一緒に考えましょう。礼拝音楽が、みことばを歌うための音楽であることを今日の日本の教会においていかに実現して行くことができるのか、大きな課題ですが、その課題を追い求めて講習の時を持ちたく願っています。教会で音楽の奉仕をされる方々の多数の参加をお待ちしています。  
講師：聖書宣教会教師・講師  
詳細：別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

（このほか、聴講制度があります。詳細は事務局まで）

# 2015年度 聖書宣教会主要年間予定

### 2015年

4月 7日（火） 入会式  
4月10日（金） 前期授業開始  
5月21日（木） 祈りの日  
6月 4日（木）～ 6月 5日（金） 特別講義  
6月13日（土） 教会音楽のひとつ  
7月 4日（土）～ 8月27日（木） 夏期調整期間  
7月 7日（火）～ 7月 9日（木） 夏期研修講座  
7月中旬～ キャラバン伝道  
7月22日（水）～ 7月24日（金） 教会音楽夏期講習会  
9月 1日（火） 前期授業再開  
10月 8日（木） 前期授業終了  
10月 9日（金）～10月21日（水） 秋期調整期間  
10月13日（火）～10月14日（水） リトリート

### 2016年

10月22日（木） 後期授業開始  
11月 7日（土） オープンデイ  
11月18日（水） 祈りの日  
11月28日（土） 賛美礼拝  
12月10日（木）～ 1月 6日（水） クリスマス調整期間  
1月 7日（木） 後期授業再開  
2月11日（木） 信教の自由を守る日  
2月15日（月） 入会試験  
3月 9日（水） 後期授業終了  
3月10日（木） 卒論発表会  
3月14日（月） 第57回卒業式

## 編集後記

諸教会でも年度末に向け、また新年度を展望して様々と備えておられる時期でしょう。恵みを数えて感謝し、

信頼と期待を堅くして歩む主の民の上に、恵みがいいよ豊かに注がれますように。（A）